

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	学園理念から読み解く現代社会		
担当者(Instructors)	榊 直樹	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

2023年に創立100周年を迎える学園は、建学の精神に「真に信頼して事を任せられる人格の育成」、校訓に「真面目」を掲げる。この理念について下出義雄初代理事長は「きわめて平凡な言葉ではあるが、同時に千古の真理であり人間精神の根本である。雋敏(しゅんびん)な才子よりも着実にして円満な常識あり気力ある人物、真に信頼して事を任せうる人格を作り上げたい」と述べている。1世紀経ても、色あせることがなく、微塵も朽ちることのない理念を踏まえて、私たちは多様な価値が交錯する現代社会をどう読み解いたらいいのか。予測不能な事象が連続し、正解を見いだせないこの先、先人の歩みを時系列的に学び直し、「よすが」となる生き方を考えたい。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	資料やテキストを使って、歴史を学ぶように時系列的に説明し、考えてもらう。過去の時代の映像も鑑賞する。テキストの『ニュース検定』には大学生に最低限必要な社会常識が掲載されており、身に付けてほしい。その上で、簡易なプレゼンテーションを通じて受講者の感想や意見を聞き合う。レポートは、答えや正解を求めるのではなく、自分がもしその立場ならどう考えるかを問う。戦争寸前の東欧や近隣諸国情勢など時事問題にも関心を持つよう、新聞記事を使った時事解説も行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	講義の目的と学園創設者・下出義先生の足取り	下出民義は幕末の泉州生まれ。15歳で小学校の校長となり、石炭商から実業の道に進んだ。名古屋に移って福沢桃介と出会い、電力開発、鉄道網整備、製鋼所設立に携わり、貴族院議員も務めた。東邦商業はなぜ「真の信頼」「真面目」を掲げたのか。	□
第2回	満州事変から太平洋戦争そして学徒出陣	東邦商業は創立11年で野球部が春の甲子園で初優勝。一方でその3年前の1931年満州事変が勃発、軍靴の足音は強まり、戦地へ向う生徒と教員も相次ぐ。さらに学徒出陣により特攻隊となる大学生、勤労動員先も空襲に遭い、教員と生徒が犠牲者となった。	□
第3回	教育勅語から教育基本法へ 国家と個人の関係は	「教育は誰のためのものか」。教育制度は、明治から敗戦時までと、戦後ではどう変わったのか。近代国家に衣替えて富国強兵、教育勅語から特攻にまで赴かせた「教育観」と、戦後の教育基本法を比較し、国家と個人の関係を考える。	□
第4回	日本国憲法の明日／民主主義を考える	敗戦までの日本の国の在りようを大転換させた現憲法の施行から75年、憲法の根本原理・民主主義は、特に新型コロナ対策をめぐる、世界中で揺らいでいる。平和主義の象徴・憲法9条も近隣の国際情勢緊迫化によって岐路にある。18歳有権者に問う。	□
第5回	ベビーブームと進学者の激増	戦地、勤労動員先、疎開地から人が戻り、ベビーブームが起きる。1950年代後半から児童が一挙に増え、集団就職、高校進学、さらに大学進学者の増となる。本学の前身・東邦学園短大が1965年に発足、学園は新たな歩みを始めた。	□
第6回	冷戦時代と60年・70年安保、学園紛争	今の世界は「新冷戦期」と呼ばれるが、約30年前までも、米国とソ連が核兵器を背景に世界の覇権を競う冷戦時代だった。日本政治にも投影し、日米安保条約改定をめぐる国論が激化、デモ参加学生に死者もでた。ベトナム戦争、日米安保、沖縄返還から学園自治と、日本中の大学が荒れ続けた。	□
第7回	高度成長が辿り着いた「失われた20年」	高度成長時代、賃上げは2万円を越えた一方、公害も広がった。経済成長最優先の意識と仕組みは、最後にバブルに踊り狂い、日本を破綻と長い低迷へ突き落とした。就職も超氷河期が続いた。「失われた20年」を振り返る。	□
第8回	企業の行動規範と社会的責任	「失われた20年」では、企業の行動規範と社会的責任が問われた。業績の粉飾や産地、品質、強度などの偽装、リコール隠しが相次いで明るみにでた。「信頼」と「真面目」の精神から見た企業の在り方とは。	□

第9回	対立に揺らぐ世界／難民に排外主義の壁／日本の外交は	米ソ冷戦の下で抑え込まれてきた世界は、ベルリンの壁崩壊、ソ連解体で自由を謳歌出来る時代の到来と思われたが、民族・宗教対立、貧富の格差などが生む大量の難民にテロリズムが横行、排外主義と新たな分裂が生まれている。	□
第10回	変わる日本の産業・貿易、働き方	隆盛だった繊維など軽工業は新興国に生産拠点が移り、家電・自動車・鉄鋼など重厚長大産業も国内市場が縮小した。かつて名を馳せた企業は倒産か身売りが業種の転換を迫られ、ニッポンの成長を支えた年功序列・終身雇用制度は崩れる一途だ。モノづくりと入れ替わるIT産業。働き方はコロナ感染予防も加わり、変容する。	□
第11回	人口減少と向き合う	1980年代、米国に次ぐ世界第2位の経済力を誇った日本だが、かつての高度成長を支えた「団塊の世代」が第一線を退き、後期高齢者に差し掛かった。出生者数も減り、特に地方で人口減少が著しい。様々な分野の衰退傾向にどう向き合ったらよいのか。	□
第12回	社会保障の将来は	年金と医療保険制度は、平均寿命が八十歳を越す時代となり、増え続ける支出に立ち往生している。それに拍車をかけるのは急速な少子化である。さらに「人生百年時代」に向かうに当たり、何歳まで働き、いくら年金が受け取れるのか。老後の蓄えに2000万円必要は本当か。	□
第13回	スポーツの世界に「真面目」は必要か	スポーツが勝ち負けを競うとき、「フェアプレイ」にどれほどの価値があるのか。国威発揚、高収入のため、薬物の力を借りてなぜ悪いのか。他方で高校野球の勝負を度外視した直向きなプレーに、なぜ拍手するのか。	□
第14回	これからのエネルギー／地球環境を守るために	大災害、体温を越す猛暑、氷河の溶け出しによる海面上昇など、地球温暖化対策が求められる中で、化石燃料を多く使う日本に国際的非難が集まる。「カーボンニュートラル」への方策、福島原発事故の教訓はどう生かすのか。単純な解がないエネルギー問題を考える。	□
第15回	まとめ	今春から18歳以上は「成人の扱い」を受ける。学生の皆さんは、既に行使できる選挙権に加え、多くの権利と責任への自覚を大人と同等に求められる。皆さんに社会が抱く期待感、自立的で若々しい積極的な行動であろう。それには信頼と、少し無謀でも直向きさではないか。学園が大切にしている理念についておさらいしながら、まとめたい。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

次回のテーマにまつわる資料を事前に配布もしくはテキストのテーマを予め伝えるので、講義の前に読む（2時間）。事後学習として、毎回示す歴史上のキーワードについて復習をする（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、講義を踏まえて、その場で提出を義務付けるレポートに関して、コメントをする。受講者を励まし、称える。と共に、物事を一層多面的、多角的に捉えて、深く考える姿勢を促す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	社会、文化等に関連する幅広い知識の習得と活用を目指し、学園が生まれた1世紀前からの歴史をたどって、現代を見つめ直す眼を養うことを到達目標とする。平和な現代に生きる意味を噛みしめ、社会のために貢献する意味を考えられるかを評価する。校訓と建学の精神を現代的に理解できるかを評価する。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
55%	0%	0%	45%	

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	2022年度版ニュース検定公式テキスト 「時事力」発展編（1・2・準2級対応）	9784620907543
2		
3		

4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN (ISBN)
1	「もういちど読む 山川日本史」 (山川出版)	
2	池井戸潤「空飛ぶタイヤ」	
3		
4		
5		